

澳國博覽會報告書 十一

323

共卅五本

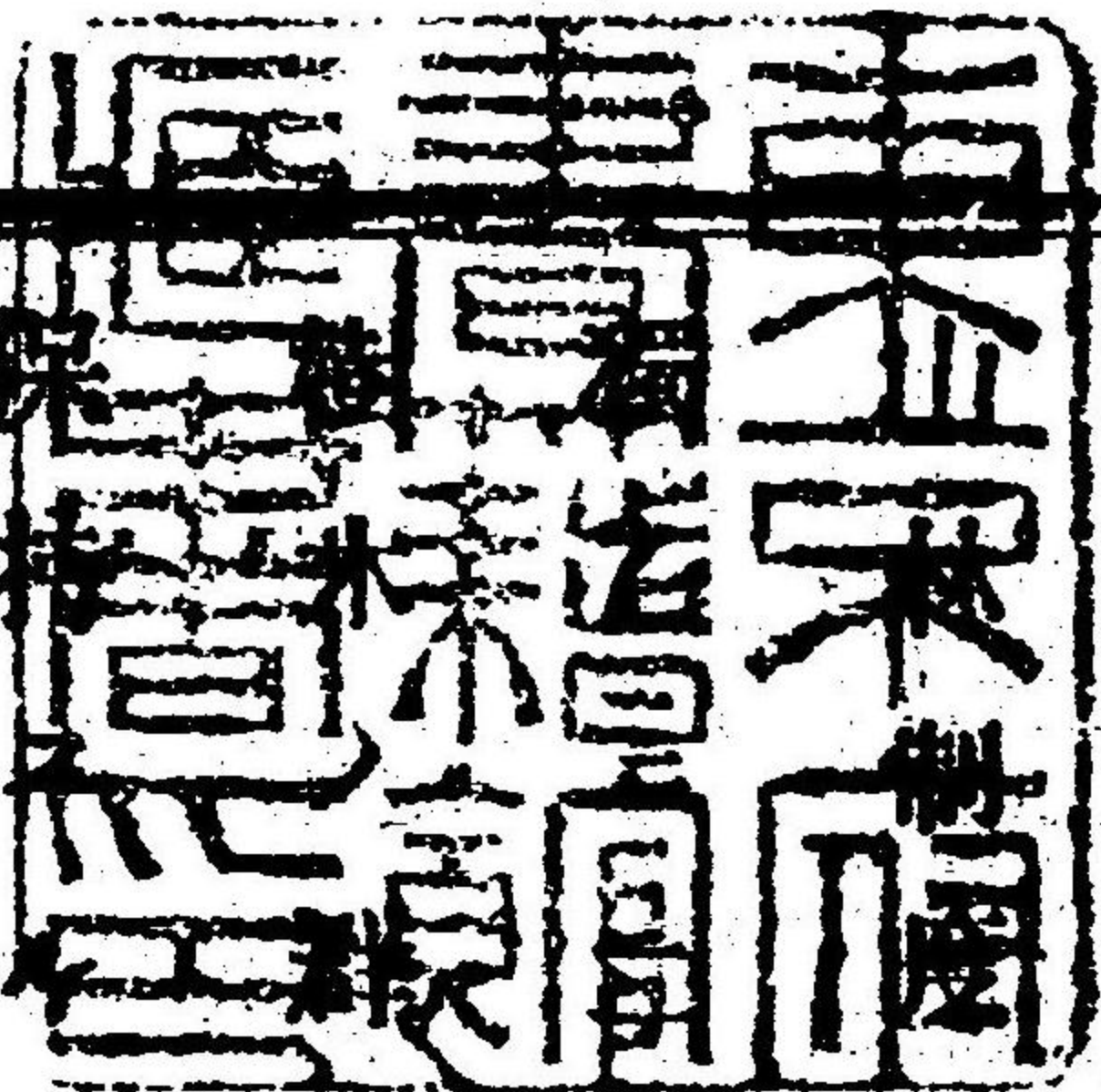
マルヘット氏山林制度論

澳國山林法律

山林經濟論



マルヘット氏山林制度論



論

語アリ曰ク山林曰ク樹林ト山林トハ

生セルモノニソ人ノ或ハ培養シ或ハ

ニ開セス總テ樹木郡生ノ通稱ナリ樹

林トハ人ノ培養保持セル樹木郡生ナリ故ニ人

力ノ及ブニ從ヒ山林ハ漸ク減少シ樹林ハ反テ

漸ク増加ス大樹林ヲ有セル國々ノ富有ナルト

樹林成物ノ人民經濟ニ要用ナルトヲ以テ之ヲ

觀ルニ其國樹林制ノ立ツト立タザルトハ即チ

人民繁殖ニ關スルノ大ナル事明ニ知ルベシ樹

事務局

林ノ用ニ二アリ一般ノ用ト固有ノ用トナリ樹
林一般ノ用トハ樹ノ氣候寒暖乾濕等ニ感スル
ヲ云ヒ固有ノ用トハ材木其他樹林成物ヲ以テ
人民ノ使用ニ給スルヲ云フナリ樹林制ノ粗ト
精トニ由テ其國家ニ用ヲ爲ス亦利不利アリ樹
林固有ノ用ハ材木並ニ各箇ノ附屬成物ヲ出ス
モノニシテ其附屬成物トハ各種ノ樹皮木實野草
及ビ家畜ヲ牧フ等ノコトヲ云フナリ樹林ノ制
規則アルモノハ固ヨリ其國內材木ノ用ヲ給シ
大ニ之ヲ有スル者ハ其餘レルヲ猶外國ニ輸出

スルヲ得假令各人ノ纒ニ一林ヲ有ツモノトイ
ヘ其制度アルモノハ常ニ之ガ費用ヲ充スニ
足ルヲ得ル明ラカナリ然レテ今此ニ私林制ヲ
説カザルハ元來此記ノ目的國家ノ山林ヲ制ス
ル如何ヲ論スルニ在ルヲ以テナリ今將ニ樹林
制ノ總論並ニ其諸業開化ニ關スルノ旨ヲ論セ
ントス而シテ其先ツ辨ゼザル可ラザルモノハ下
章ニ申ブル所ノモノナリ是レ樹林ノ用タル主
旨ヲ盡ク説クニ非ス唯其用ノ二三ノ大綱ヲ舉
ルノミ夫レ樹林一般ノ用ニ主タルモノハ其氣

候晴雨ニ感ズルヲナリ凡テ樹林ノ立アル地方ニ於テハ寒暖ノ變調樹林ニ乏シキ地ノ如ク甚シカラス樹林周圍ノ大氣ハ樹木ノ生セザル地ノ如ク日光ノ爲ニ大ニ熱セラレズ又樹木アルノ地ハ夜ニ當ツテ度数甚シキ差ナク固ヨリ樹木ナキ地ノ大差アルモノト異リ樹林ノ感得シテ寒暖ヲ平均スルハ農作ニ切要ナルモノナリ而シテ其之ヲ平均スル所以ノモノハ温氣ヲ四方ニ射出スルニ因ルナリ且樹林近傍ノ地ハ常ニ暴風雨ノ難ヲ避ケ又樹木ナキ地ノ如ク旱魃ノ

患ヲ受ルヲアラズ總テ樹木ハ其葉ノ細孔ヨリ水氣ヲ吹出シ樹根ハ地中ニ自ラ造リ得ル所ノ泉ヨリ日夜水氣ヲ吸テ以テ自ラ養フナリ今試ニ山林ノ一樹林ノ常ニ平均ヲ保ツ所以ヲ説ン夫レ山林ノ樹木タルヤ毎ニ水ノ山上ヨリ下レル勢ヲ減縮ス是レ其一分ヲ地中ニ引キ以テ地面ニ衝突スルノ勢ヲ挫クナリ樹木ナキ山ハ其下リ落ル水勢ノ速力ヲ減スル無キヲ以テ微水ト雖モ猶地面ニ衝突スルノ勢ヲ爲ス暴雨アルニ當テハ山頂ヨリ落ル所ノ速力ヲ増

加スルヲ以テ砂石ヲ轉シ土塊ヲ流シ遂ニ洪水
ヲナシテ平地ニ漲溢スルニ至ル如此キハ管
ニ地面ノ荒廢ヲ致スノミナラス田圃總テ砂石
土塊ノ爲ニ摧盡セラレ且此水一タビ浸セルハ
ハ其地再ビ耕スニ難ク或ハ力ヲ用ウルモ耕ス
ベカラザルニ至ルモノアリ故ニ山林制度其宜
キヲ得ルハ平地ノ荒瘠ヲ防クニ足リ樹林制
ノ規律立ツハ寒暖乾溼及ビ動植ノ生活等盡
ク其宜シキヲ得テ不時ノ天災ニ罹ル少カルベ
シ又樹林ハ大氣ノ流動ニ感ス其感スルヤ一ハ

乾燥セル氣ニ濕氣ヲ配與レ一ハ其激勢ヲ減縮
シテ以テ災害ヲ起サズラシム又雷雨交作ヲ防
クテアリ然レモ此用ハ未ダ上文ニ記セシモノ
、如ク確乎タル理論ヲ聞カズ今樹林制ノ宜ヲ
得タルモノ、感應ヲ數ルニ人生ノ健康ニ關ス
ルヲ載セザル可ラズ事己ニ前文ニ詳ナリ現
ニ察スベシ氣候ノ定ラザル寒暑乾濕ノ變調セ
ル烈風ノ連リニ起ル如キ是レ皆人民ノ生活上
ニ害アル甚シキモノナリ山林ノ制一タビ立ツ
ニ及テハ是等ノ患害來ルヲ希ナリ殊ニ解セザ

ル可ラザルハ樹木ノ大氣ヲ清淨ニスルノ用ナ
リ其所以ハ樹木能ク空氣中ニ在テ人生ニ大害
アル所ノ炭氣ヲ吸取シ以テ之ヲ分析シ而シ人
生ニ缺ク可ラザル緊要ノ生氣ト「チツラン」一種ノ
變形トシ吐テ之ヲ空中ニ流動セシムルヲナリ
造化ノ家政中樹木ニ此用アルヲ辨知セルヨリ
近時巨金ヲ費シ樹木ヲ都府ノ中央ニ植エ之ヲ
シテ大氣中ニ在テ混濁腐敗セル諸氣ヲ吸取シ而
シテ其大氣ヲ清淨ニスルヲ日々ニ新タナラシ
ム此ノ如キ一日モ缺クベカラザル人間ノ大要

件ヲ行フ固ヨリ制林ノ規則アルニ非レバ能ハ
ズト雖モ人民ノ開化此理ヲ解スルニ至ラザレ
バ其宜シキヲ得ル亦難シ然レモ之ヲ知ルノ易
キ譬ヘバ此ニ人アリテ樹林近傍ニ止ラン必ス
自ラ應ニ其軀軀精神ノ清爽ナルヲ覺ユベシ假
令機ニ其樹邊ヲ過ギ或ハ逍遙スルモ忽チ快氣
ヲ覺ユルアラシク氣候極烈ノ城暴風雨屢々來リ
或ハ洪水漲溢スルノ地ニ在テ之ヲ防クニ苦辛
セル人民ノ如キハ智慮鈍キヲ以テ貿易工業ノ
道開ケズ内外對稱ノ妙合ニ成レル莫勇生セザ

ルモノナリ各國開化歴史殊ニ亞米利加開化史
ニ因ルニ國ノ始テ開化スルヤ激烈ノ造化力ヲ
防カザレバ人民生存スル能ハザルノ地ニ肇メ
ズ必ス氣候暢和ニシテ内氣ヲ發生スルノ好機ヲ
授ルノ地ヨリ肇ムト云ヘリ總テ乾燥スルノ地
泉源ノ乏キ境或ハ洪水存リニ臻リテ農作ナラ
ザルノ處或ハ寒暖ノ變調甚シキ地方及ビ山林
樹木ヲ伐ルノ多キニ過ギタルヲ以テ人ノ偏隅
ニ倚ラザレハ住スルヲ得ザルノ地等ニ於テハ
人民ノ氣力凋衰レ万業ノ基礎タル活氣ヲ伸ブ

ル能ハザルナリ
山林ヲ制スルノ宜キヲ失フハ其制ノ規則ナキ
ヨリ起レリ故ニ樹木ヲ斬伐スルヤ時季ニ關セ
ズ其用アルニ從ヒ縱マヽニ之ヲ伐テ更ニ培養
スルヲ無シバ之ヲ再ヒ繁茂セシメント欲ス
ルモ亦能ハザルナリ苟モ此ノ如クナレバ前條
ニ記セシ如キ不利ノ氣候至リ晴雨其宜キヲ失
レ墮テ又人ノ健康ヲ害シ活氣ヲ衰ヘシメ開化
進歩セズノ反テ退縮ス此弊例ヲ履ムモノ甚ダ
多シ今其一二ヲ舉ンニ墾國クライント云ル一

郡ニ「カルスト」ト名ヅクル山アリ此地昔時羅馬ノ盛世「ベチー」ジック」ノ繁華ナリシ時ニ當テハ船ヲ造ルニ無比ノ樺材ヲ出セシ名地ナリ然ルニ今ハ荒廢シ僅カニ羊ヲ牧フニ足ルノ草木ヲ生スルノミニニ再ビ樹木ヲ植ルニ由ナク竟ニ如此キ無用ノ長物ニ屬スルニ至レリ其地ニ住スル人民モ往時ハ富有ナリシト雖モ今ハ慙スヘキ貧民トナリ智慮亦魯鈍トナレリ當今政府再ビ之ヲ與サント欲シ年々無數ノ金ヲ費スト雖モ未ダ功ヲ奏スル能ハズ又佛國ニ「ユラ」ト呼ベ

ル一ノ山アリ此地亦再ビ樹木ヲ植ント欲セシモ徒ニ巨金ヲ費セルノミニニ竟ニ成ラヌ當今其地ノ景況タル暴風雨屢至リ大石雪塊毎ニ顛轉スカヲ極メ金ヲ費シ纔ニ樹木ヲ植ルモ忽チ之カ爲ニ摧折セラル其再ビシ三タビスルニ至ルモ亦始ノ如シ瑞乙國內亦樹木ヲ植ルニ年々數百万フランク貨幣ヲ費ヤセル所アリ是レ雨雪ノタメニ顛轉セラル、岩石等ヲ支ヘ防ガンガタメナリ其他當今開化ノ猶歐洲ニ及バザルノ地即チ瑞丁那威ノ若キモノモ其樹林ヲ荒廢

セル多シ希臘西班牙ニモ亦アリ全歐州曾テ此
悔アラザルハナシ其詳ナルヲハ予ガ後記ニア
リ抑歐洲ノ全國近世樹木培養ノ大要務ナルヲ
ヲ覺知セル所以ハ各國諸價日ヲ逐テ騰貴シ且
ツ境土ヲ開キ鐵道ヲ造リ木造工術愈盛ナル等
ノヲヨリ起レリ然而シテ此制林ノ事業ヲ修ム
ルヤ未タ多年ヲ經ズン其學術大ニ進ビ遂
ニ前轍ヲ履テ誤ラズ後患ヲ起サズルベキ政府
ノ行政如何ヲ論議スルニ至レリ今予ガ下條ニ
申ブル所ノモノモ予ガ鄙見ヲ聽ント欲セル日

本政府ニ裨益アル行政ノ一体ヲ論センヲ要
ス故ニ此ニ申ブル所ノモノハ皆ニ之ヲ學習ス
ルノ補助ニ足ルノ論ヲ載スルノミナラス廣ク
許多ノ識者實行家ノ確説定論ヲ舉ク而シ山林
ノ二用即チ材木及其他雜品ヲ出スト樹木ノ諸
業ニ感關スルトノハ已ニ前條ニ載タリ此大
感關アルヲ見テ之ヲ制スルノ宜キヲ失ハシ
テ恐レ徒ニ勞思ニ過ル却テ材木ヲ出スノ不便
ヲ生スベシ故ニ政府過不及ナキノ制度ヲ立
ト欲セバ自ラ能ク全國ノ樹林ヲ取テ之ヲ管セ

ザルヲ得ザルベシ然レモ方今經濟家ノ確定セ
ル論ニ供給ハ需用ニ從フト云ヘリ是レ之ヲ此
ニ需ムルモノアレハ必ス之ヲ彼ニ造ルモノア
ルヲ云ナリ而シテ需ムルモノ愈多ケレバ之
ヲ給スルモノ亦愈多ク需用愈盛シナレバ其物
價隨テ亦愈騰貴ス縱ヒ需用ノ高其原數ヲ出デ
ザルモ供給減ズルハ其價亦騰貴ス今此編ニ
於ルヤ一ハ當今ノ世態ヲ說キ一ハ政府ノ樹林
ヲ制スル方法ヲ述ベ傍ヲ方今歐州ノ材木騰貴
セル所以ト材木缺乏ノ至ルヲ憂慮スルヲ要

セザル經濟家ノ說トヲ記スベシ其憂慮ヲ要セ
ストハ若シ材木ヲ欲スルモノアレバ必ス之ヲ
賣テ以テ其利ヲ得ント欲スル者アラシ人誰カ
利ヲ欲セザラン苟モ材木ニ利アルヲ見ル必ス
龜勉スニ從事スベシ近ク譬ヲ取シニ若シ樹木
ヲ作ルノ利ヲ小麥ヲ作ルノ利ヨリモ多カラ
シメハ誰レカ樹木ヲ作ラザラン故ニ國家ノ爲
ニ材木ヲ供給センノ之ヲ衆ニ任セテ政府深ク
此ニ手ヲ下サズシテ可ナラン如此キハ政府
一ノ煩勞ヲ免カレ其國民ヲ材木ノ用ヲ給セ

シメンガ爲ニ更ニ規律ヲ設ルニ及バザルベシ
且ツ之ヲ自然ノ勢ニ任スルキハ供給需用ノ平
均ヲ取ルニ最モ宜シク人民物ヲ造リ利ヲ得ル
ノ自由ヲ得テ進歩大ニ速カナルベシ苟モ私林
ノ制ヲ立ル細事モ遺サズ政府盡ク之ヲ領知セ
ントセバ國家ノ費用夥シキ而已ナラズ人民ノ
自由ヲ壓抑スルヲ以テ人民必ス其煩ヲ壓ヒ遂
ニ斯ニ從事スルノ氣力ヲ失フニ至ラン墮國ノ
一郡曾テ試ニ嚴確ナル制林法ヲ設ケタリシト
雖モ果シテ妨碍頻リニ起リ其終リヲ全フセズ

レテ能ミタリ然ラバ材木ノ下ハ總テ衆ノ意ニ
任セ其私林ヲ制スルニハ政府更ニ關係セザル
ヲ以テ是トスル如シト雖モ此ニ又政府ノ嚴律
ヲ立テ以テ制セザルベカラザルノ樹林アリ是
レ國家ノ諸業開化ニ關スル樹林一般ノ用ナリ
樹林ヲ制スルニ政府ノ意ヲ用ウベキモノハ獨
リ一人ニ關スルノミナラズ總テ國家ノ利害ニ
關スルモノヲ取テ自ラ管制レ衆ノ爲メニ之ヲ
計ルコトナリ是レ即チ樹林一般ノ用ニ緊要ナル
樹林ヲ保護スルヲ云フナリ此ノ如ク獨リ一人

ニ關スルノミナラス總テ衆庶ノ利害ニ關スル
ノ樹林ハ一人ニ任セズノ政府自ラ取テ之ヲ管
ス故ニ此樹林ヲ稱シテ保護林ト云フ樹木ノ山
林ニ在テ土地ノ氣候晴雨ニ關シ岩石雪塊ノ崩
頽ヲ防キ或ハ溪流ノ漲溢ヲ支ル如キ總テ國家
ノ利害ニ關スルモノハ政府自ラ取テ制ズベキ
モノトス然ラバ今國家開化ノ利害ニ關スルモ
ノハ如何ナル樹林ソト問フニ余等今日猶細詳
ニ之ヲ云フ能ハスト雖モ既ニ確然辨知セルモ
ノハ山陰山頂ニ在ルノ樹林ナリ此地ノ開墾ニ

ハ宜シク補助ヲ爲スベシ其山腹ニ在ルモノハ
河水泉源ヲ絶ヘザラシメ岩石雪塊ノ崩頽ヲ防
キ溪流ノ漲溢ヲ減スルナリ何ノ地ヲ論スルナ
ク山林ノ己ニ甚シク荒蕪セルモノアル其保護
林ト爲スベキヤ否ヲ立地ニ決斷セザル可ラス
政府ノ之ヲ監視スル墾國ニ於テハ政府ヨリ難
形ヲ以テ其山林ヲ制スルノ規則ヲ命ノ之ヲ羈
縛シ必ス之ニ違犯スル無ラシムルナリ其山林
ヲ荒蕪スルヲ防キ或ハ己ニ荒蕪セルモノヲ處
置スル法ノ若キハ墾國樹林律ニ數條ヲ載タリ

然レモ 奥國此律ヲ設ル己ニ三十年未ダ一ノ實
功アラズ何ヲ以テ然ルヤ是レ法ヲ設テ之ヲ實
地ニ行フノ策立ザル故ナリ政府一タビ法律ヲ
立ル徒ニ紙上ノ論ニ附セズ而シテ實地ノ用
ニ供シ若シ之ニ違犯スル者アル即チ法ヲ以テ
之ヲ罰スベシ是緊要ノ事ナリ否ラザレハ之ヲ
立ル猶立テザルノ勝レルニ如カザルベシ其法
ヲ立テ之ヲ行フニ切要ナルノ策ヲ如何ト云フ
ニ各所ニ識者ヲ置キ以テ各郡制林ノ指揮ヲ爲
サレド又保護林ニハ制度ノ宜キヲ失スルモノ

有ルヲ察スルニ足ル可キ識者ヲノ其意見ヲ政
府ニ告ゲレモ政府ハ其可否ヲ察メ之ヲ施行ス
ルナリ方今奥國ニ於テモ此人アリ是ヲ樹林監
察官ト云フ即チ高官ナリ然レモ此官員ヲノ私
林ヲ制シ保護林ノ主ト同シク林ノ事ヲ司ル
ヲ得セシメズ止メ公私林ノ別ナク其制ノ可否
ヲ察メ之ヲ忠告セシム固ヨリ命令ヲ以テ威權
ヲ執ラシメズト雖モ而モ其事ヲ糾問スルノ權
ヲ與ヘ若シ危害ノ制アルヲ見ル則之ニ違フ
ハ必ス至當ノ罰アルベキナ人民ニ諭サシム此

ノ如ク監察官ヲノ之ヲ監察セシムル苟モ危害
アルキハ則之ヲ察シ必ス大害ヲ起スニ至ラシ
メズ此監察官ヲシテ成ルベク簡易ニ事ヲ計ラ
シムルト此官員ヲ撰ブ博識ニシテ義勇アル人ヲ
取ルトノ最モ緊要トス此監察官ノ管知セル
所ノ地ハ必ス廣キニ過ザルヲ要ス是監察ノ至
ラザル恐レアルヲ以テナリ而シテ其管内ヲ巡
視スルハ四時ヲ論セズ宜シク數々セシムベシ
又監察官ヲシテ純ラ一主事ノミヲ務メシメズ
其勤務ノ際或ハ山林主ノ業ヲ助ケシメ或ハ山

林成物ノ收納ヲ監セシメ又ハ樹林表記科ヲ兼
子掌ル等ノ有ラシム可シ予今日本ノ未ダ此
樹林律アラザルヲ知ルヲ以テ之ガ爲メニ一言
ヲ辨ゼザルヲ得ズ夫レ國家ニ樹林律ヲ立ル
ハ制林ニ政府手ヲ下スノ本原ニシテ此律ヲ立ル
ノ眼目トスル所ハ政府ニ於テ私林ノ妨ゲヲ爲
サズ唯國家ノ利害ニ關スルモノニミ取テ之ヲ
羈縛シ一度其律ヲ立ル必ス之ヲ奉ゼシムルヲ
要ス是レ大主旨ナリ而シテ此律ヲ行ヒ有名無實
ノ患ナカラシメントハ之ヲ樹林監察官ニ委任

スベシ又前條ニ申ブル所ノ保護林若シ私有ノモノタルキハ政府ヨリ其制林ノ法ヲ指揮シ宜シク之ニ從ハシム可シ今一層簡易ノ法ハ國家ノ利害ニ關シ保護林ト爲サズルヲ得ザルモノハ盡ク之ヲ買收シ以テ官林ト爲スニ若クハナシ然ラズソ一人ノ所有物タラシムルキハ其人ノ勞力利益ト國家ノ利不利トノ間ニ於テ必ス不便ノヲ多ク生スベシ此ノ如キ山林ハ山頂ニ多キモノナリ政府能ク此ニ注意セザル可ラズ今前條ニ記セシ如ク樹林監察官タルモノ必ス

識者ニ非ザレバ能ハザルキハ意フニ今日本ニ於テ樹林學校ノ設ケ無キノ際必ス人ヲ歐州ニ遣テ之ヲ學バシメサルヲ得ズ而シテ其遺ル所ノ人ヲシテ歐州學校ノ規則ニ從テ三年ノ久シキニ至ルニ非ザレバ成リ難シ猶願フ所ハ日本政府其人ヲ撰ブニ博物學及數學ニ熟達セルモノヲ以テセシメテ然ラザレバ其人歐州ノ樹林學校ニ入ルト雖モ其學ブ所ノ順序ヲ經ルニ自ラ不利ナル所アラシキ若シ其人ヲ得テ卒業セシムルキハ皆ニ樹林監察官タルノミナラズ凡ソ日

本ニ設立セントスル學校ノ教師ト爲ルニ堪ユ
ヘキヲ必セリ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ日本樹林制
ヲ起スノ最要件ハ自國ニ樹林學校ヲ設ルニ在
リ否セザル時ハ後進ヲ歐洲ニ遣リ大金ヲ費セ
ル事長ク止マノ期無ルベシ

維納府近傍マリアブロン樹林大學
校國政兼法律學教師

博士グスタブ、マルヘット記

緒方道平譯

澳國山林法律
全

澳國山林法律

第一條

山林ヲ分ツテ三種トス

第一 官林即チ國家ノ山林ニシテ政府直ニ之ヲ管理ス

第二 社林是レ府都郡縣及ヒ邑村ニ屬スルモノトス

第三 私林是レ國民或ハ寺社或ハ會社等ノ有スルモノトス

第二條

凡ソ山林官私ノ別ナク許可ヲ得スシテ妄ニ開墾シ以テ田圃庭園ト爲スヲ一切嚴禁タリ而シテ其許可狀ハ公林ニハ管轄省ニ於テ之ヲ與フ若シ天災戰爭ノ如キ非常ノ事起ルアラハ地方官及ヒ關係人等悉ク之ニ臨ミ務テ以テ其害ヲ避シムルヲ要ス社林及私林ニハ其許可狀ヲ監視官ヨリ與フヘシ但シ林主ハ勿論苟クモ其關係アル者ハ盡ク呼出シ審察ノ上其愈與フヘキヲ見テ之ヲ與フヘシ若シ其事ニ係リテ他ヨリ其旨趣ヲ申立ル

アラハ監視官之ヲ地方官ニ引渡シテ裁判セシム可シ其裁決ニ及フ迄ハ此山林ニ決シテ妨害ヲ加フルノ處置アル可ラサルヲ此法ヲ犯シ妄ニ山林ヲ開墾スル者アルニ於テハ其大小輕重ニ從ヒ一ヨハニ付一フロヨリ五フロ一ヨハハ四十方クテラテラ迄ノ罰金ヲ出サシメ且期限ヲ定テ以テ樹木ヲ植シム若シ怠慢ニシムヘシ

第三條

新ニ伐リタル公林及社林ニ植付スルヲ遅クモ
五年ヲ出ツヘカラス久シキ荒廢ノ地ニ至テハ
漸々ニ此ニ植付スヘシ
私林ヲ處スルノ方ハ第二十條ノ例ニ從フ但シ
時機ニ由テ其期限ヲ長クスルヲアルヘシ
此命ニ違フモノハ第二條ノ法ヲ犯セシ者ト其
罰同シ

第四條

官私ノ別ナク總テ山林ヲ暴伐スルヲ禁ス暴伐
ニ二様アリ一ハ伐盡シテ再ヒ萌生ス可ラサル

ニ至ラシメ一ハ之カ爲ニ他林ノ成長ヲ妨ル
ナリ此暴伐ニ因テ他ノ樹木ヲ害スルハ第二
條ノ例ニ從テ之ヲ罰シ其再ヒ植付セシムルニ
期限ヲ以テスル亦同シ若シ再ヒ萌生ス可ラサ
ルニ至ラシムルモノハ一ヨハニ付十フ口迄ノ
罰金ヲ出サシム可シ

第五條

伐盡シテ隣山ニ風害ヲ受ケシムルノ林ハ之ヲ
伐盡スルヲ禁ス但シ此ノ如キ林ニハ狭クモ二
十クヲフナル幅ノ樹ヲ存シテ之ヲ所謂防風垣

ト爲スヘシ而シテ規則ノ如ク隣山伐木ノ期ニ及ベルキ此防風垣ヲ伐ラシム之ヲ伐ルヲハ只洗伐ヲ許シテ一般ニ伐ルヲ許サス

第六條

林木ヲ伐盡シテ其區ヲ赤地ト爲スニハ飛散シ易キ土^性カ將タ高燥ノ地ナルキハ其樹木ヲ漸ク以テ洞伐シ洞伐トハ林間ニ向テ樹木ヲ一直接ニ透シテ伐ルノ方ヲ云フ面シテ透次ニ此法ヲ施シ又高山ノ防風垣タル林木ヲ伐ルニハ必ス洗伐ヲ用ウヘシ

第七條

山腹及ヒ水ニ觸ル所ノ如キ土礫崩レ易クシテ巖石ヲ以テ成ラザル地ニハ後害ヲ起サシムルヤウ注意シテ木ヲ伐ルヲ要ス根反ヘシ根堀等ヲ爲スニハ其採取タル跡ノ大ナラサルヤウ豫メ意ヲ用ウ可シ

第八條

第五第六第七ノ條例ニ違背スル者アルニ於テハ之ヲシテ二十フロヨリ二百フロ迄ノ罰金ヲ出サシム又之カ爲ニ害ヲ受ル者アルキハ其罪

人ヨリ之ニ償ヒテ出サシム可シ

第九條

アインホルスツング 林主ト定約アリテ其定約ノ材
木等ヲ取ルヲ得ルカ或ハ牛馬
ヲ牧フ人力ニ於テハ管ニ山林ノ妨害ヲ爲サ
ルノミナラス能ク其法ヲ定メテ預メ後害ナキヤ
ウニス可シ其法ヲ定ムルハ山主ト「アインホ
ルスツング」トヨリ願出ルニ當リテ監視官識者
ノ公論ニ據リ其圖面ヲ以テ之ヲ定ムルナリ但
シ監視官ノ居ラサル地ニハ區長之ヲ司リ若シ
此地ニ於テ山主ト「アインホルスツング」トノ争

論發ルルハ即チ區長之ヲ裁判ス

第十條

稚樹ヲ育養スルニ牧畜ノ其害ヲ爲スモノハ之
ヲ牧フヲ免サス但シ全林一般縱マヽニ牛馬
ヲ放タス只之ヲ牧フニ足ルヘキノ地ヲ限リテ
此中ニ牧フヲ得セシム可シ此育養稚樹ノ區
ハ大抵喬林ニハ全林六分ノ一矮林中林ニハ五
分ノ一ヲ以テ限トス而シテ林主或ハ牧牛主ヨ
リ牧者ヲシテ其家畜ヲ此育養稚樹ノ區内ニ入
ラシメサルヤウ注意セシムヘク又之ヲ散逸シ

テ妨害ヲ爲サシメス集メテ一群ト爲シテ牧セ
シムヘシ若シ最モ要用ナル林区アラハ之ヲ避
ケテ故サヲニ迂途ヲ取テ其家畜ヲ行ル可シ

第十一條

落葉及ヒ苔雀ヲ掻集ルニハ必ス木把ヲ用ウ可
シ決テ土ヲ掻キ或ハ穿ツヘカラス小草覆盆子
金雀草ノ類ヲ秣草ニ用ルカ爲ニ掻取ルキハ其
地ノ稚樹ヲ傷ツケサルヤウ注意ス可シ
洞伐ノ地ニハ秣草ヲ取ルヲ許サス稚樹ノ區ニ
於ルモ其稚樹ヲ害スルノ恐レアルモノハ亦之

ヲ禁ス

第十二條

大小ノ灌木榛莽甚シク鬱茂スルキハ其伐木ノ
期至レル地ニハ之ヲ伐ルヘシ又伐リ倒セシ木
ハ全ク其枝ヲ伐ルヘク伐木ノ期ニ近キ立木ハ
其枝ノ下部ヲ三分ノ二迄伐テ可ナリ其伐倒サ
スシテ此處ニアルモノハ決テ枝ヲ伐ル可ラス
其他ノ場所ニテハ柯ハ唯三分ノ一ヲ疏洗シ柯
ノ間ニ在ル條ハ決シテ切ル可ラス又急ニ伐ラ
サル木ノ枝ヲ切ルニハ烈寒ヲ避ケ八月ヨリ三

月ノ間ヲ以テ伐ルヘシ總テ枝ヲ伐ルニ鑊靴ヲ以テ攀登スルヲ禁ス

第十三條

木葉ハ三年毎トニ之ヲ取ルヘシ決テ枝ヲ伐ルト木葉ヲ取ルトヲ以テ同時ニ爲ス可ラス
稚樹ヲ取テ秣草ノ類ト爲スハ其林主ノ適意ニ任ス可シ

第十四條

第九條ヨリ第十三條迄ノ定律ニ從ヒ山林内ノ業科ヲ他ニ許セシ林主ハ必ス其許セシ所ノア

インホルスツングニ材木及ヒ秣草等ノ取ルヘキ時節ヲ報知シ而シテ育養稚樹ノ區ニハ或ハ榜ヲ立テ或ハ繩ヲ張テ預メ其標識ヲ爲シ置可シ但シ其場所其期日又其稚樹ノ區域等ハ林主ヨリ邑長ヲ經テ分明ニ「アインホルスツング」ニ告ク可キナリ自然後日ニ至リ「アインホルスツング」ノ爲メ黙スルヲ得サル不便ヲ生スルニ非ザレハ林主ニ更ニ義務アルナシ

第十五條

樹木ヲ伐ルニハ先ツ標識ヲ付置クヘシ其標識

ハ太キ樹ニハ楠ヲ以テ之ニ印シ細キ木ニハ其
役夫ニ詳ニ説諭シテ洗伐スルニ標準タルヘキ
ノ木ヲ與ヘ且其地ニ就テ洗伐スヘキノ場所ヲ
指示スヘク又根掘リ輪枝ヲ取ル等ニハ預メ其
場ニ標識ヲ爲シ置テ之ヲ取ラシムヘシ

第十六條

稚樹ヲ育テントスル場所ハ秋冬ノ雪アル時季
ヲ以テ木ヲ伐ルヘク其伐リタル木ハ久シク其
所ニ置カスシテ運出ス可シ又稚樹ヲ育テサル
所ニ於テハ春分夏分之ヲ伐ルモ妨ケナシ然レ

正 翌年初春ノ比ヒマテニハ遅クモ之ヲ運出ス
可シ

細キ棒木ノ外凡テ液ノ多キ木及ヒ葉ノ出ル時
ニ伐リタル木其他落葉後幾日モ經スシテ伐リ
タル木等ハ枝木細木ノ外ハ必ス新葉ノ出ル時
迄ニ皮ヲ剝キ或ハ筋皮ヲ去リ又ハ之ヲ割ル可
シ
伐リ倒ス木ニハ枝ヲ多ク存シ置ク可ラス其幹
ヲ伐リ枝ヲ斷テ運ヒ出スニハ近傍ノ樹木及
稚樹等ニ創ツケサルヤウ注意ス可シ秣草モ亦

刈リタル後三ヶ月内ニハ必ス運出ス可シ此規
則ハ「アインホルスツング」ニ於テモ必ス能ク意
ヲ用テ其期限ヲ誤ルナキヲ要スヘシ

第十七條

總テ山林ヨリ材木ヲ運出スニハ從來用來レ
ノ路或ハ林主ヨリ指令セル道或ハ梯道ヨリ運
出ス可シ又林主ヨリ「アインホルスツング」之
ヲ運ヒ出スノ前ヘ之ニ標識ヲ付ケ置キ運出ス
ニ當テ尋問ノ備ヘニ其木ノ證書ヲ齎ラシムル
ノ權アリ又「アインホルスツング」ヨリ其収帖ヲ

出サシム可キ權アリ

「アインホルスツング」其定期ヲ誤リシキハ林主
ヨリ十四日間ヲ限リテ之ヲ促シ猶其期ニ後ル
ハ林主ノ隨意タルヘシ

第十八條

「アインホルスツング」山林定約ニ違フト違ハザ
ルトノ議論起リシキハ刑法ニ關スル「ノ外ハ
一切地方官之ヲ裁ス可ク若シ林主此定約並ニ
地方官ノ指令ニ違背スルキハ其每度二十フロ
ヨリ二百フロ迄ノ罰金ヲ出サシム可シ

アイシホルスナル定律ヲ犯スルハ之ヲホルス
トフレール樹林註違ト看做シテ罰スヘシ

第十九條

國家公私ノ利害ニ關スルノ山林譬ヘハ雪塊巖
石ノ轉顛及ヒ山崩等ノ防禦トナル者ハ必ス存
セサル可ラサルヲ以テ國家ノ爲メニ其制ヲ政
府ヨリ指令シ以テ樹木ヲ存シ置ク可シ此除地
タル山林ハ其詳記セル規則ニ從ヒ更ニ嚴密ニ
之ヲ取扱フ可シ

此山林ノ制ヲ過マルトキハ必ス其掟ニ從ヒ處

置アルヘシ此ノ如キ林ヲ扱フモノハ誓テソノ
掟ヲ守リ若シ事アルトキハ自ラ其責ニアタル
可シ

第二十條

除地ト爲スルハ組合ノ者官吏及ヒ其地ニ關係
アル者其他又監視官ヨリ識者ヲ召ヒテ盡ク此
ニ會シ若シ監視官無キ地ニ於テハ區長ヨリ識
者ヲ招キ以テ之ヲ定ム可シ
邑長其他關係人識者等ノ集會ヲ以テ除地相定
ルルハ即チ「アイシホルスツング」ヲ全ク締止ス

若シ従前ノ除地ヲ止ムルコトアル即チ前條ノ人員集會ノ亦之ヲ定ム

第二十一條

社林ヲ分テ取ルコト通常之ヲ許サス然レモ止テ得サル事故アルカ之ヲ分テ各人ノ便宜ヲ得ルニ於テハ之ヲ配與スルコトアリ而シテ必ス縣廳ヨリ許スヘシ
其他山林ヲ區分スルコトアルモハ其地所離合律ニ依テ之ヲ定ムヘシ

第二十二條

山林ノ規則ニ毫モ背カサルヲ以テ縣廳ノ特視スル所アル林主ニ於テハ必ス政府ヨリ指令セシ所ノ制林識者ヲ用テ此ニ置ク可シ
私ニ此林區ヲ變シテ田圃等ト爲シ或ハ再ヒ樹木ヲ植付ルヲ惰リ若クハ山林ヲ荒廢セル等都テ其規則ニ違ヘル者ハ地方官二十三條ノ例ニ從テ之ヲ處置ス可シ

第二十三條

地方官ハ其區内ノ山林ヲ盡ク察理シ第二十二條ノ例ヲ犯ス者アルヲ告者アルモハ其關係人

ト公平ノ識者トテ召ヒ若シ私林ナルキハ其近
鄰ナル山林主及ヒ重立タル者ヲ召出シテ之ヲ
裁判ス可シ此費用ハ罪ヲ犯セシモノヨリ出サ
シムルト雖モ願人理無キキハ願人ヨリ之ヲ出
サシム
若シ其費金ヲ出サシムヘキ識者ノ令ヲ肯セサ
ル者アルキハ之ヲ刑法官ニ引渡ス可シ

山林產物運送

第二十四條

凡ソ山林產物ヲ運ヒ出スニハ他ニ道無キ地ト
他ニ道ヲ取ルキハ驟多ノ費用アル處ハ其處ノ
地主之ニ我所有地ヲ通行スルヲ許ス可シ而
シテ之ヲ運ヒ出ス人ニ於テハ成ルヘク之カ害
ヲ爲サ、ルヤウ注意シ若シ害ヲ爲スキハ爲ニ
償ヒテ出ス可シ
他人ノ地ヲ通行セサレハ材木ヲ運ヒ出サ、ル
ヲ得サルキハ區長其地主及ヒ木ノ運ヒ主識者
等ヲ召出シ成ルヘク其害ヲ爲サ、ルヤウ運出
ノ方ヲ定ムヘシ

若シ區長ノ裁判其宜キヲ得サルキハ之ヲ縣廳ニ再訴ス可ク其損害ヲ償フコトニ付爭論發リテ區長之ヲ決シ難キキハ即チ刑法官ニ引渡ス可シ然レモ其法既ニ定マルキハ之ヲ運ヒ出スト運滯ス可ラス必ス定期ヲ以テス可シ

第二十五條

總テ積高ノ物譬ハ土塊水塊ノ如キモノ或ハ材木ヲ運送スル器具或ハ通常ノ道途水路及ヒ建物アル所ヲ運出ストハ必ス監視官ノ許可ヲ得テ之ヲ行フベク又監視官ハ識者及ヒ關係人ヲ

召出シ談合ノ上之ヲ取計フ可シ

第二十六條

材木ヲ流シ出スニ或ハ筏トナシ或ハ散木ト爲シ之カ爲ニ種々ノ裝置ヲ設ケサル可ラサル之ヲ設ルニ別ニ免許ヲ受クヘシ此免許ハ監視官ヨリ與ヘ監視官ノ在ラサル地ニハ其縣廳ヨリ與フヘシ此裝置ヲ設ルコト唯一區而已ニシテ足ルコトアリ又監視官ハ一人ニ止レモ其裝置ヲ設ルノ場所數區ニ及フコトアリ此裝置ヲ設ルコト長クモ三年ノ外ニ出ルヲ免サス若シ此裝置監視

官數人ニ亘ルキハ其許可ハ縣廳ヨリ出シ數州ニ及フカ或ハ三年以上ニ至ルヘキモノハ其許可必ス内務省ヨリ出スナリ私有ノ水路ヲ經サレハ之ヲ出ス能ハサルキハ第二十四章ノ例ニ倣フヘシ

第二十七條

流木ノ裝置建築ノ許可ヲ願得ルヲ何人ニ限ラズ已ニ其設ケヲ爲セルモノアル其本人木ヲ流スノ際ハ本人ノ承諾無キニ他人ニ此定水ヲ以テ木ヲ流スヲ許サズ新ニ許可ヲ得タル人ハ

下條ノ如ク定水ヲ造リシ本人ニ其木ヲ賣許スルカ或ハ其本人ト共ニ之ヲ流ス可シ其共ニ流スルハ防禦ノ方法ヨリ之カ爲ニ發スル凡テノ損害ノ處置ニ至ルマテ悉ク之ヲ共ニスヘシ第三十一條第三十四條ヲ併セ見ル可シ

第二十八條

流木裝置ノ許可願ヒ並ニ年限追願等ハ其何年ヨリ始メ何年ニ終ルノ限ト何地ヨリ何地迄達スル場所ト又流木ノ木名及ヒ全積等ヲ成ヘク詳細ニ書出ス可シ

流木装置造營ノ許可ヲ願フニハ其場所造營方
ノ目的及ヒ明細ノ圖面ヲ出ス可シ勿論其近傍
ニ關係アルモノ並ニ其水路ニアル建物又水機
關ノ器具等モ詳ニ之ニ記載ス可シ

第二十九條

新ニ流木装置ノ免許或ハ年期追願又ハ流木装
置建築ノ願等出ルニ於テハ地方官ヨリシテ此
装置ノ關スル邑材へ直チニ其趣ヲ布告スヘシ
既ニ數年ノ装置ヲ願ヒシモノアルニ又他ヨリ
同所ニ之ヲ共ニセンコトヲ願ハントスル者アル

キハ二週或ハ六週ノ内ニ其由ヲ申出ヘシ若シ
此期ヲ過ルキハ地方官其關係人組合識者等ヲ
其場所ニ召集メ其邑人ニ問糺シテ後宜キヲ取
テ之ヲ裁許スヘシ

第三十條

流木ノ装置建築ヲ許スニハ縱ヒ第二十七條ニ
照準シテ障礙ナキモノト雖モ若シ之ヲ許スキ
ハ大ナル危害ヲ起ス恐レ有ル歟他ノ在來ノ之
ヨリ大ナルモノ或ハ之ト同シキモノニ妨ゲア
ルカ又ハ本人ノ償フコトヲ得ヘカラサル大害ヲ

引起ス可キモノハ一切之ヲ許サス
多人數一同ニ裝置ヲ造ント欲スルカ或ハ同シ
場所又ハ其場所ニ接近シテ之ヲ造ラント欲セ
ハ若シ許シテ可ナル地ナレハ一同合議ノ上共
ニ之ヲ造ルヲ得サシム可シ
若シ地方官ヨリ申渡セシ期限ノ内ニ一同ノ商
議相ト、ノハザルトキハ地方官コレヲ裁斷シ
時宜ニヨリテ省ヨリコレヲ裁判ス可シ第二十
六條
若シ此裝置ヲ造ルニ付テ除地スヘキコトアルハ

ハ其律ヲ以テ之ヲ處置スヘシ

第三十一條

流木裝置ノ免許ヲ得タル者多人數ニテ同一セ
サルヲ以テ其裝置ヲ一人毎ニ分テ許セシキハ
時限ヲ定メテ其木ヲ流サシメ時限ニ差支有ル
時ハ其木ノ多寡ニ隨テ前後ヲ定メ數ノ多キ者
ヲ以テ先キトスヘシ若シ其多寡皆同シケレハ
是迄流シ來リシ年月ノ長キ者ニ先テ讓リ同シ
ク初年ナラハ其流セル里程ノ長キモノヲ以テ
先トスヘシ其許可ヲ得テ裝置ヲ造得タル本人

ニ於テハ他人ノ裝置ヲ此地ニ造ル能ハスシテ
流シ來レルノ木ヲ其地ノ相場ニテ買取ルヘク
或ハ己レカ妨碍ヲ爲サルキハ之ト與ニ流サ
シム可シ若シ共ニ流スヲ能ハサルキハ其人ノ
迷惑ナラサルヤウ爲ニ能ク其木ヲ取捌ク可シ

第三十二條

流木裝置建築ノ許可ヲ出スニハ若シ數人同シ
場所或ハ接近ナル場所ニテ之ヲ共ニセントス
ルニ自然商議相調ハサルキハ木ヲ多ク有セル
者ニ之ヲ許シ若シ双方同シキキハ長ク流シ來

レル者ニ許スナリ而シテ此裝置ヲ作ルニ必用
ナルモノハ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ買取ル可シ

第三十三條

新ニ流木裝置ヲ建築スルモノハ在來ノ裝置ヲ
妨ケサルヤウ注意ス可シ又在來ノ裝置ヲ有ス
ル人ハ其新ニ建築スル人ヨリ頼談ヲ受ケ己カ
爲メニ故障ナキ時ハ之ヲ許容ヌ可シ
本人既ニ其裝置ヲ用井サルキハ之ヲ賣却スル
カ或ハ貸渡スヘシ若シ全ク無用ノモノニ屬ス
ルキハ則毀ツ可シ

第三十四條

新ニ此装置ヲ造ル人ハ岸涯或ハ水路ニ在ル建物水機關ノ器具等總テ地方官有用物ノ破損セサルヤウ預メ其防キヲ爲ス可シ
此防禦ノ費用ハ管ニ装置ヲ造ルタメノミナラズシテ他ニ水害ヲ致スルハ装置者ヨリハ相當ノ割合ヲ以テ其費用ヲ出サシム可シ全ク装置スルカ爲ノカ或ハ意ヲ用弗サルヨリシテ生ゼシ破損ハ全ク装置者ヨリ償フ可シ凡テ装置而已ニ非ラサル破損ハ装置者ト受害者ト其割合

ヲ立テ以テ之ヲ出ス可ク若シ此割合立テ難キハ之ヲ半割シテ各々均シク之ヲ出ス可シ装置無キモ生ズベキ破損ニ至テハ固ヨリ装置者ニ關係ナシ

第三十五條

流木装置ニ用ル水他ノ水機關ニ必要ナル水ヲ用ルル其規則ヲ立ルニハ水理ノ規則ニ從テ定ムヘシ流木ヲ揚置ク場所ハ時宜ニヨリ地方官之ヲ指令ス

第三十六條

前條ノ規則其外之ニ關係アル事件ヲ盡ク檢察
シテ后テ流木裝置建築ノ許可ヲ與フヘシ然レ
モ引續キ三十年以上ニ及フハ許サス三十年
ヲ期トシ其期年內ニテ時宜ニヨリ長短ノ期限
ヲ許スヘシ

第三十七條

流木裝置建築許可ヲ與フルニハ其約定書及破
損ヲ償フヘキ豫備金ヲ願人ヨリ預リ置クヲ要
ス之ヲ定ムルニハ地方官其關係人及ヒ識者ヲ
召ヒ宜ヲ取テ之ヲ決ス可シ第四十條

第三十八條

流木ノ割木材木ノ外ハ盡ク其印ヲ地方官ニ告
ケ地方官之ヲ其流セル水筋ノ土人へ公然布告
ス可シ割木杙木ハ各定寸有ツテ之ヲ印ノ代ト
ス

第三十九條

木ヲ流スノ役夫水ニ沿テ他人所管ノ岸ニ到リ
其流木ノ取捌スルアルハ其地主異論ヲ生ス可
ラス然レモ之カ爲メニ破損所アル如キハ地主
其償料ヲ取ル可シ

第四十條

木ヲ流シ畢レハ其每度必ス其趣ヲ地方官ニ告ク可シ而シテ其關係人以前無キ所ノ損害ヲ新ニ見出セルキハ日數十四日ヲ限り其由ヲ申出可シ若シ之ヲ申出ル十四日ヲ過レハ裝置者之ニ關係ナシ

第四十一條

流木裝置ノ規則ニ違フ者ハ其罪ノ輕重ニ從ヒ之ヲ罰ス輕キ者ハ一日ヨリ三週迄ノ徒役或ハ五フロヨリ百フロ迄ノ罰金重キ者ハ三週ヨリ

三ヶ月迄ノ徒役或ハ百フロヨリ五百フロ迄ノ罰金ヲ出サシメ又ハ其裝置ヲ盡ク収奪シテ其損害ヲ總テ償シム可シ

第四十二條

此裝置ノ造リ方ト其主ノ所爲トヲ監察スル人ハ必ス公平ナル識者ヲ撰ビ而シテ流木ノ價位裝置建築入費建築雜用諸品及ヒ防禦方損料等ノ幾許ナルヤヲ察シテ爲ニ豫備金ヲ出サシム可シ三十一、三十二、三十三、三十四、三十七、三十九、四十、條ヲ併セ見ル。若シ此令ヲ受ル人不服ノ者アルキハ之ヲ刑法官ニ引渡

ス可シ

此流木装置仕方ニ付地方官ノ命ニ違フコアル
ハ之ヲ償ハシム可シ

第四十三條

邑長並地方官ハ流木ノ半途ニ滯ヲサルヤウ能
ク装置者ヲ助ク可シ

山林燃燒並ニ虫害

第四十四條

山林ニ火ヲ投シ或ハ山中或ハ山端ニテ火ヲ弄

ブ一切嚴禁ス此ノ如キコヨリシテ山火ヲ起
スルハ其人ヲシテ損失ヲ償ハシム可シ時トシ
テ之ヲ罪律ニ當テ難キモノハ五フロヨリ四十
フロ迄ノ罰金又ハ一日ヨリ八日迄ノ徒役ヲ申
付可シ

第四十五條

若シ山中或ハ山端ニ打捨アルカ又ハ人ノ心付
ザル火アルヲ見ルキハ必ス之ヲ打消ス可シ若
シ山火ヲ見バ先ツ巳レカ行ク方ノ近キ人家ニ
至リテ告ク可ク其聞タル人ハ直ニ村長林主及

七樹林師等ニ知ラシムヘシ若シ之ヲ等閑ルキ
ハ五フロヨリ十五フロ迄ノ罰金又ハ一日ヨリ
三日迄ノ徒役ヲ申付可シ

第四十六條

山火アルキハ林主樹林師或ハ當所ノ重立タル
者ヨリ近里ノ人民ヲ召集メ之ヲシテ防火具草銚
取銚杓子銚ヲ取リ力ヲ極メテ其火ヲ消サシム
斧水桶等
可シ又村長樹林師等ハ此人民ヲ指揮シ先導ハ
其場ノ樹林師ノ頭立タル者ヲシテ之ヲ勤シメ
若シ其人無キ地ニ於テハ其邑長或ハ其代人ニ

之ヲ課セシム可シ

第四十七條

先導人ハ此山火ヲ消スニ當テ其方向ヲ取ルコ
最モ要務トス又村長樹林掛リノ者ハ救火人ノ
列ヲ整フルコトヲ掌リ救火人ハ其指揮ニ從テ其
火ヲ鎮ムヘシ火ヲ鎮メテ后其場所ニ一二日或
ハ時宜ニヨリ長クモ看守人ヲ附置可シ

第四十八條

山火アルニ當リテ其所ノ長者若シ人ヲ召集メ
サルキハ五フロヨリ五十フロ迄ノ罰金ヲ出サ

シム又召集ルト雖正故ナクシテ之ニ應セサル者ニハ五フロヨリ十五フロ迄ノ罰金又ハ一日ヨリ三日迄ノ徒役ヲ申付可シ

第四十九條

火ヲ救フカ爲メニ害ヲ受ケシ者アレハ其火ヲ救ハレ災ヲ免カレタル人ヨリ之ニ償ハシム可シ然レ共其害ヲ受シ人自ラ其火ヲ救フニ由テ大ナル害ヲ免レ得シ者ハ此例ニ非ス若シ前條ノ救火規則ニ違背セルモノ有テ其起レル害ヲ検査官裁決スル能ハザルキハ之ヲ刑法官ニ引

渡ス可シ

第五十條

山林ノ虫蝕ヲ防クヘ極ニ能ク意ヲ注ク可シ林主及ヒ樹林師之ヲ防クモ及ハス其害將ニ近鄰ノ山林ニ及ハントスルヲ見ルキハ直ニ之ヲ地方官ニ告ク可ク違フ者ハ五フロヨリ五十フロ迄ノ罰金ヲ出サシム可シ其之ヲ告ルヘハ唯ニ林主ニ止マラズ誰ニテモ見當ルニ從テ直ニ報告スヘキナリ

第五十一條

地方官ハ迅速其事ノ識者ヲ召ヒテ之ヲ防クヘ
キノ術ヲ問ヒ又關係アル林主樹林師ヲ召テ神
速ニ其防キヲ爲サシム可シ其外此害ノ至ラン
トスル所ノ林主ハ必ス能ク助テ之ヲ防ク可シ
之ヲ勤ムルコトハ地方官ノ役務ナルヲ以テ必ス
其指令ニ從フ可シ此入費ハ關係アル林主ヨリ
其林ノ大小ノ割合ヲ以テ出ス可シ

山林護衛

第五十二條

山林護衛ノ人ニハ總テ其地ノ事ヲ注意シテ護
ルモノヲ撰ブ可シ其勤方ニ決シ難キ或ハ彼此
ヲ願ミサル可ラサルコトアルハ縣廳庶事ノ關
係ヲ察シ宜シキニ從テ之ヲ定ム可シ政府或ハ
組合又ハ私林ノ持主ヨリ護衛ノ人ヲ置クハ
其護衛人ヨリ管理ノ方法並ニ勤方ノ誓書ヲ地
方官ニ出サシム可シ

誓書ノ雛形
下ニ記ス

第五十三條

第五十二條ノ如ク誓書ヲ出セル山林護衛人ハ
公然タル管理職ニシテ其職分ニ於テ注意スヘ

キ事務ハ總テ國法ヲ以テ行フヲ得ルノ權アリ且其職務中ハ武器ヲ帶スルヲ許サル何人ニテモ其指揮ニ逆フ可ラス

第五十四條

山林護衛人止ムヲ得サルヲアテハ其帶スル所ノ武器ヲ活用スルヲ得ヘシ又公然其護衛人タル即テ管理ノ人タルヲ知ラシメン爲メニ其勤務ノ際タハ預メ布告アリシ所ノ衣裳ヲ著ス可ク縱ヒ其衣裳ヲ著セサルモ其區内ニ布告アリシ帽子又ハ腕輪ヲ著ク可シ

第五十五條

護衛人ハ人ノ間道ヨリ山林ニ入ル如キ總テ怪シキ所業ヲ見ルキハ直ニ之ヲ驅逐ス可シ樵具即テ斧鋸等ヲ執持シテ妄ニ山林ニ入り辨解相立サル者ノ如キハ其器具ヲ取奪シテ其所ノ救助金ニ充ツ可シ

第五十六條

山林ヨリ物ヲ持出シ怪シキ體ニ見ユルモノアルキハ直ニ其物ヲ取奪シテ可ナリ

第五十七條

犯法人或ハ疑シキ者アルハ之ヲ捕フヘシ犯
法人若シ其知ル所ノ者ナレハ之ヲ捕ルニ及ハ
ス然レモ其人抗論拒杆等ニ及ヘルカ或ハ定リ
タル住所無キカ又ハ其罪ノ輕カラサル者ハ之
ヲ捕ムテ直ニ其職務ノ人ニ引渡ス可シ

第五十八條

賊ヲ見當リシキ彼レ若シ逃去ントセハ之ヲ山
林外ニ追出ルヲ得可ク其置去リシ物アルハ
ハ之ヲ收拾シ置ク可シ

山林規則其他總テ法ヲ破リシ者ノ處置

第五十九條

罪律ニ在ル所ノ山林規則ヲ犯セル者ハ其罪律
ニ就テ之ヲ處置ス

第六十條

第十八條ノアインゲホルステノ律ヲ犯ス者四
十四條ヨリ五十一條迄ニ記セシ條例ヲ犯ス者
ノ外左ニ擧ル如キ罪律ニ適當シ難キモノ或ハ
林主又ハ其代人トノ約定ニ背ケル者其他法ヲ
犯セル者等總テ之ヲ山林罪人トス即チ

- 第一 細木ヲ取集ル
- 第二 立木及ヒ細木ニ斧又ハ他ノ物ニテ大小創ツクルヲ斧ヲ打入レテ穴ヲ穿ツテ鑊靴ニテ攀登シ傷ツケテ其成長ヲ害スルヲ木ノ皮ヲ縱橫輪剝スル
- 第三 伐リ倒シアル所ノ樹木ノ皮ヲ剝取ルヲ木ノ根ヲ掘取ルヲ木ノ芽及ヒ大小ノ枝ヲ伐取ルヲ木ノ葉ヲ撈取ル
- 第四 稚樹並ニ灌木ヲ根掘リ或ハ伐取リ拔取ルヲ又ハ篠木小枝輪枝等ノ細木ヲ取ル

- 第五 木液榲松脂テレピンターヲ取リ或ハ果實ヲ取リ或ハ蕈類腐木木根等ヲ掘反ス
- 第六 約定ナクシテ木葉ヲ搔取ルヲ又鑊把或ハ非常ノ具ヲ以テ之ヲ搔集ルヲ粘土泥炭石類キブス其他礦物雜草等ヲ斷切ル
- 第七 山林護衛ノ指令ニ戻リテ山林ヲ出サルヲ新道新橋ヲ造リ其他通ル可ラサル道

ヲ横行スルヲ大土塊ヲ取り水ヲ鄰林ニ
落シ入レ炭燒場ヲ造リ其他種々ニ地面
ヲ用ルヲ

第八 其許シテ得スシテ他人ノ山林ニ家畜ヲ
牧フヲ又牛馬ヲ約定ノ數ヨリ多ク牧ヒ
或ハ約定ナキモノヲ牧ヒ或ハ約定ニ違
ヘル場所時節等ニ秣草ヲ取ルヲナリ

第六十一條

其權其許可ナク又ハ約定ニ違ヒ輪木細木等ヲ
取集ル者アルハ其木及ヒ其器具ヲ取奪之

ヲ其區ノ救助金ニ充ツ可シ此者若シ再ヒ此ノ
若キ所爲アルハ一日ヨリ三日迄ノ徒役ヲ申
付可シ

第六十二條

罪律並ニ第四十四條ヨリ第五十一條迄ノ規則
ニ適當セス又第六十一條ノ例ニモ無キ者ハ第
六十條ノ犯律ニ依テ處置ス故ニ山林内ニ規則
ヲ犯スハ其罪ノ輕重ニ從ヒ或ハ一日ヨリ二
週迄ノ徒役ヲ命シ或ハ五フロヨリ五十フロ迄
ノ罰金ヲ出サシム可シ

第六十三條

家畜ヲ其牧フヘキ權ナキ場所ニ牧フカ或ハ意ヲ失シテ斯ノ如キ場所ニ之ヲ放テ置ク者アリトモ林主及ヒ代人タル者其家畜ヲ殺スヲ得ス只之ヲ追ヒ出ヌノ權アル可シ然レモ若シ損害ヲ爲スコトアルハ其償フニ足ル可キノ牛羊ヲ捕ヘ置クノ權有リ牧者直ニ之ヲ牽去ル可シ

第六十四條

林主或ハ代人タル者其害ヲ受ケシ由テ必ス八日內ニ其職務ノ人ニ訟ヘ家畜主ヨリ其損害ノ

償ヲ取入シテ即チ捕ヘタル所ノ家畜ヲ其主ニ返ス可シ而シテ其償金ノ内ヨリ家畜取扱ノ費用並ニ之カ爲メニ使用セシ人ノ雇賃等總テ合算シテ收受ス可シ若シ家畜主相當ノ代品ヲ差出スニ於テハ其家畜ト引替ルコトヲ得セシム可シ又家畜主ノ居所知レザル即チ其罪ス可キ所無キ者ノ如キハ損害ヲ受タル人ヨリ其損失ヲ地方官ニ申出可シ

第六十五條

若シ綿羊山羊家猪等ノ捕ヘ難キハ其犯法ノ

場ニ於テ之ヲ射殺スモ可ナリ而シテ其死タル
モノハ斃レタル場所ニテ其儘其主ニ引渡ス可
シ

第六十六條

若シ雪霰或ハ暴風雨等ノ如キ危難ヲ避ルタメ
ニ家畜ヲ隣林ニ追ヒ入ル、トアルルキハ之ヲ罰
スル_ト勿ルヘク然レモ若シ損害アルキハ之ヲ
償ハシム可シ

第六十七條

山林規則ニ違フ牧者ハ第六十二條ノ例ヲ以テ

罰ス可シ育養稚樹ノ標榜等ヲ打破リ或ハ竊取
ルキハ之ヲ償ハシム其他罪律ニ適當シ難キモ
ノハ山林犯律ヲ以テ一日ヨリ三日迄ノ徒役ヲ
命シ五フロヨリ十五フロ迄ノ罰金ヲ出サシム
可シ

第六十八條

總テ山林護衛ヲ犯セシ者ヲ罰スルニハ載セテ
罪律ニ在ルモノハ刑法官其法ニ依テ之ヲ罰ス
可シ若シ罪狀第六十條ヨリ第六十七條迄ノ規
則ニ係ルモノ或ハ第四十一條ノ如キ流木裝置

ノ規則ヲ犯セル者ハ第十八條ニ論セシ林主ヘ
ノ犯罪及ヒ第四十四條第五十一條迄ノ公禁ヲ
破リシ者ト同シク地方官ヨリ之ヲ罰ス可シ

第六十九條

犯律者ヲ處置スルニハ地方官必スシモ受害者
林主圃主葡萄園主公私有司及ヒ附屬關係者第五
條十二其他警察兵等ヨリ訴出ルヲ待テ後々之ヲ
行フヲ要セス縱ヒ他ヨリ聞知スルアルモ必ス
捕ヘテ之ヲ罰ス可シ

第七十條

有司ヨリ罪人アル趣ヲ其區ノ地方官ニ達スル
ニハ他ノ有司ニ順次ニ傳語シテ之ヲ地方官ニ
達スヘク又其趣ヲ記シ置キ月々之ニ達スル
モアルヘシ是其時宜ニ任スナリ之ヲ記スノ方
ハ定法ノ如クニシ若シ罪狀ヲ決スルノ甚ダ急
ナルモノハ其罪狀ヲ細記スルニ及ハス別ニ記
方アルヲ以テ之ニ標準シ其要目而已ヲ記スヘ
シ勿論他人ノ口書ヲ要セス只記者ノ糺問セシ
ケ條而已ヲ記載シテ可ナリ

第七十一條

右ノ犯律者並ニ第十八條ノ林主犯法セルモノ
第四十四條ヨリ第五十一條迄ニ載スル所ノ犯
法人ノ處置ハ盡ク之ヲ縣廳ニ告クヘシ縣廳其
律ニ由テ之ヲ裁判スルナリ

山林犯律償方

第七十二條

林主ニ對シ法度ヲ犯シ其損害ヲ償フ者ハ獨リ
其損害ヲ償フ而已ナラス此事ニ就テ費セル總
テノ費用モ盡ク出サシムヘシ

第七十三條

償金ヲ出サシムルハ地方官失誤ナキ爲ニ山林
關係ノ者ヲシテ其害ノ大小並ニ模様等ヲ定法
ニ從テ明細ニ記載セシメ之ニ依テ以テ裁斷ス
ヘシ之ヲ記載スル所ノ人ハ先ツ之ヲ其上司ニ
聞セシメ上司了承ノ上地方官ニ出ス可シ

第七十四條

若シ訴出ル所ノ者其樹林師ノ支配ニ非サルカ
其損害ヲ訴出ル者其場ノ山林關係者ニ非サル
ハ地方官別ニ近邊ノ樹林師ヲ召ヒ問テ後ナ

其償ヲ判斷ス可シ若シ近邊ニ樹林師無キハ
更ニ公平ナル識者ヲ召出シ詳ニ問テ後之ヲ決
ス可シ

第七十五條

損害ノ輕重大小ヲ定ムルニ若シ決シ難キケ條
アルキハ地方官屬吏ヲ其場ニ遣リ爭論ノ起ラ
サルタメ二人ノ實直公平ナル識者ヲ召テ之ヲ
裁斷セシム可シ

第七十六條

償金ハ其區又其中ノ場所ニ隨テ之ヲ定ム可シ

地方官之ヲ定ムルハ先ツ識者ヲ召ヒ更ニ償罪
律ニ照準シテ之ヲ定ム可シ然レモ此償金ハ年
月ヲ經材木價直ノ替ルニ隨テ之ヲ改ム可シ而
シテ若シ損害ヲ受タル人時宜ニヨリ其定メノ
償金ヨリモ大ナリト見込メルキハ更ニ其裁判
ヲ願フモ妨ナシ

樹林勤仕人ノ誓書雛形

山林ノ保護注視ヲ予ニ信任セル其主ノ爲メニ

子ハ居常務メテ配意シ信義ヲ以テ之ヲ守衛シ
何ノ地ヲ問ス山林ニ妨害ヲ爲ントスル怪シキ
者並ニ現ニ妨害ヲナス者アルキハ情好ヲ捨テ
盡ク之ヲ申シ時宜ニヨリ其人ヨリ姑ク相當ノ
物品ヲ取置キ或ハ其人ヲ抑留スヘシ勿論罪ヲ
キ人ヲ尤メス又非理ヲ以テ之ヲ難セス只務メ
テ妨害ヲ除去リ又其妨害ノ萌セル有ルヲ見ル
キハ直ニ之ヲ申シ其根ノ滋蔓セサルニ迫テ速
ニ之ヲ斷ツヘシ凡ソ犯罪人ノ國律ニ當ル者ハ
之ヲ上司ニ告クヘク或ハ告ケス或ハ告ルアル

モ其了承ナキニ決シテ我意ヲ行フテ以テ其職
務ヲ擾ラス且止テ得サル事故アルニ非サレハ
必ス他ニ行クヲ須キス總テ委任セラレ、事
務ニ勉勵スルヲ神明ニ誓フ所ナリ

緒方道平譯

臺灣省立圖書館

山林經濟論

山林經濟論

ミユンヘン地名技術大學校經濟政表兩學教師博士
ハウスホツヘン氏曰ク樹林ヲ制スルハ他事ト異
ニシテ人力費用ノ夥多ナラサルモノナリ其最
モ務ムヘキハ其風土ヲ察シ是ニ適セル樹木ヲ
栽培スルヲ主トス今茲ニ山林ノ事ヲ知ラント
欲セハ其國ノ大小ニ比シテ山林ノ多少ヲ觀察
シ人民ノ衆寡ヲ算シ之ニ稱フノ樹木ヲ栽ル
一大眼目ナリ然シテ通例人民稠密ノ地ニ樹林
ノ多キヲ希ナリ人民漸ク増加シ農事ノ進ムニ

從ヒ肥地、平地、海岸等ノ如キ之ヲ斬伐シテ運輸
スルニ便宜ナルノ地ハ先ツ之ヲ斬取シ田圃牧
野トシ或ハ其制ヲ誤リテ荒瘠セシメ地面ノ景
ヲ異ニシ唯山陰瘠地ノ如キ五穀ヲ生セサル地
ノミ樹林ヲ存スルニ至ルヲ常ナリ樹木ノ性々
ル草類ト同シカラス成長徐々ニシ其用ヲ爲ス
ヲ運シ故ニ樹林ノ制一旦宜ヲ失フキハ之ヲ恢
復スル多年ヲ經サレハ能ハス故ニ預メ之ヲ未
來ニ防ガザル可カラス其制度ノ宜シキヲ得ン
ト欲スル如何シテ可ナラン必ス國民ノ用ニ過

不及ナク永ク用ヰテ空盡ノ憂ナカラシムルニ
アリ然シテ國民ノ用ニ稱フ山林ヲ設クルニハ
每一人一ケ年ニ幾許ヲ要スルヲ視ルニ在リテ
之ヲ視ルヲ甚々難シ方今實行者モ理論家モ尙
通算ヲ立ル能ハサルハ之ヲ用ルノ各地各風有
ルニ因ルナリ故ニ此算ヲ立ル其地ニ從ヒテ各
差異アリ其各風アルトハ第一ハ建築ニ材木ヲ
用ウルノ多寡舟車器具ヲ製スルノ多少第二ハ
工匠彫刻ノ用ニ供スル材ノ産不産地方寒暖ノ
長短ニ因テ薪材ヲ費スノ多寡又之ヲ用ウル製

造所等ノ多少薪材代用品ノ有無等ニ關シテ用
ルヲ同シカラス昔時ハ樹木ヲ伐ル一モルゲン
二千二百フノ地ヨリ三十クビーキフース
ト平方 凡三丈
方立ヲ取ルヲ通規トシ人民一頭ニ一モルゲンノ
山林ヲ持タサレハ材木ニ缺乏困窮スヘシト云
ヘリ然レモ薪材代用品有ルノ地ハ此例ニ非サ
ル論ヲ待タス各國山林ヲ區分シテ體ヲ爲スモ
ノ四アリ第一官有林第二縣邑林第三寺社林第
四私有林ナリ而シテ此區分ヲ立ルノ得失大ニ
國家ノ經濟ニ關係ス務メテ其宜ヲ失ハサルヘ

シ當今諸國山林ノ一二ヲ例センニバイエルン
ノ山林ハ全地百分ノ三二、四アリ此三二、四ノ山
林ヲ百ノ全數トシ官有林三四、縣邑林一六、私有
林五〇、ナリウヰツテンベルグノ山林ハ全地ノ二
七、二アリ之ヲ百ノ全數トシ官有林三一、六縣邑
林七八私有林三〇、四アリグルヘツセン全地ノ三
六、八ノ林ヲ百トシ官有林三一、六縣邑林三八、九
私有林二九、三アリ佛國ノ山林ハ全地ノ一六、二
之ヲ百トシ官有林一三八縣邑林二一二私有林
六五ナリバーデンノ山林ハ全地ノ三三、四アリ

之ヲ百ノ全數トシ官有林一七、二縣有林五〇、七
私有林三二、一ナリ「白義」ノ山林ハ全地ノ一九、四
アリ之ヲ百トシ官有林七、一縣邑林二七、四私有
林六五、五アリ凡ソ樹林制ノ正シク行ハル、之
ヲ小分シテ衆民ニ配賦スルニ失ヒ官有林縣邑
林等ノ廣大ナルモノ多キニ得テ山林保續ヲ圖
ルニ利アリ且ツ樹林ヲ設クル其風土ノ異ルニ
從テ同シキヲ得ス各地ノ潤葉樹ノカ樹ニハコ
テ又萌生スル或ハ狹葉樹切松等ノ如キ樹ニ
モテ又萌生スル或ハ狹葉樹切松等ノ如キ樹ニ
者フテ或ハ喬林各樹成育ツル極中林ノ成長
云

マテ育ル樹ノ間ニ屢切リ矮林數年切リ度
萌生スル樹ノ多ク同シカラザルハ此故ナ
ア山林ノ益ヲ國家ノ爲メニ圖ルハ喬林ノ樹
齡ヲ極メシムルニアリ然リト雖モ若シ私有林
多キハ皆已レカ爲メニ利ヲ得ルノ速カナラ
ンヲ欲スルヲ以テ多クハ潤葉樹ヲ植テ屢之
ヲ伐リ喬林ヲシテ漸々減少スルニ至ラシム又
之ニ反シテ官有林ノ多キ地ハ喬林立テ能ク保
持スルモノトス譬ハ獨逸連邦ノ如キモ各同シ
カラスヘツセン及ヒホムブルグノ喬林ハ百ノ

二十一 サクシモンニハ九十五クルヘッセン及ヒフ
ランプルトニハ九十七アリ以テ其國ノ山林制
度如何ヲ視ルヘシ山林ヨリ生産スル者ノ多少
ト樹木成長ノ強弱運速ハ風土ノ善惡制林ノ得
失人民開化ノ等級樹林保持ノ巧拙費用ノ多寡
ニ關スルモノナリ譬ハ一ヘクタール凡四十五
方面平ノ樹林ヨリ年々舉ル所ノ材バーデンニテ
八五八ステレス二十九年方ウキツテレベルグニテ
ハ五佛國ニテハ八四六瑞西ニテハ三九バイエ
ルンニテハ三四普國ニテハ三サクシモンニテハ

二九 澳國ニテハ二七ナリ之ヲ民口ニ當ルキハ
バーデンニテハ一、六ウキツテンベルグニテハ
一、五澳國ニテハ一、三瑞西ニテハ一、一佛國ハ〇、
九サクシモンハ〇、五ナリ其同シカラサル此ノ如
シト云ヘリ又澳國農部省内山林事務局長ホフ
ラート、ミクリツツ氏澳國事務局長ハ五等官ナリ山及
ヒ同國マリアプロン地名樹林大學校法律兼經濟
學教師博士マルヘット氏曰クスハルノナシ彼獨逸ノ
國タル往昔全地殆ント森林ノミナリシカ人民
繁殖シ人智發揚スルニ從ヒ漸次開墾シテ或ハ

田圃トシ或ハ牧野トシ方今ニ至リ森林ノ存ス
ル者ハ僅カニ全地四分ノ一二過キサルノミ方
今若シ往昔ノ如ク一人ノ主宰保護スル者ナク
一人ノ樹林家出ルナク衆人ヲシテ擅ニ之ヲ斬
取セシメハ二十年ヲ出スシテ材木空盡ニ至ル
ヘシト又方今歐州ノ經濟碩學博士ウヰルヘルム
ロツセル氏ノ説ニ曰ク一時ノ簡便ヲ以テ宮室家
屋ヲ作ルニ盡ク材木ヲ用井屢々火災ニ罹リ灰
燼ト爲ス豈思ハサルノ甚シキニ非スヤ唯材木
ノ用井サル可ラサルハ造船ト鐵道ノ二箇ニ在

ルノミ又曰ク材木ノ價ヒ廉ナルノ地ハ人皆思
慮ナク之ヲ用ル多キヲ以テ缺乏ヲ致スト速カ
ナリ故ニ末タ空乏セサルニ當ツテ預メ之ヲ慮
ラスンハアルヘカラス樹林ノ制度ヲ立ル文化
ノ至極ニ非ラサルハ盡ク之ヲ私有トシ其制
ノ適度ヲ得ルヲ難シ如何トナレハ若シ之ヲ小
分シテ衆庶ニ配與シ各自巳レカ爲メノミヲ圖
リ之ヲ開墾シテ田圃又ハ牧野ト爲スハ山林
減縮シ國家ノ爲メニ災害ヲ生スルアルモ皆私
利ニ迷ヒ伐テ止ム可カラザルヲ以テ樹林ヲ制

スルハ先ツ之ヲ政府ニ委スルヲ可トス近時君主特權ノ政體漸ク衰へ衆庶天理ニ戻ルノ束縛ヲ脱シ自主自由ノ論大ニ行ハレ眞ニ不羈ノ快ヲ得ルニ當ツテ唯樹林ノ制ノミ其趣ヲ同シクセサルカ如シト雖也之ヲ政府ニ專制セシムルハ束縛抑壓ノ法ニ非ス衆庶ノ名代タル政府自ラ之ヲ知ルルハ衆庶ノ爲メニ圖ルニ利アルヲ以テナリ然而シテ政府ノ取テ以テ制ス可キノ寂タルモノハ所謂保護林ト爲スヘキノ山林ナリ此保護林ヲ定ムルノ方固ヨリ其地勢ト氣候

トニ關セルヲ以テ之カ定則ヲ立ルヲ難シ而シテ其主トシテ之ニ注意スヘキモノハ其山林ノ能ク原泉ヲ漏出シテ以テ樞要ナル江河ニ注致シ勁風ノ西東ヨリスルヲ論セス風ノ勁軟ハ地向ス異均シク之ヲ支ヘテ以テ田圃ノ害ヲ防キ其他激流ノ邊ニ在テハ每ニ堤防岸涯ヲ維持シ絶險ノ地ニ在テハ岳石頽雪ノ轉跌ヲ防ク如キ是レナリ故ニ保護林ト爲サレ得サルノ山林ハ大抵山巔或ハ山腹ニ在ルナリ山林ニ從事スルモノ能ク此ニ注意シ其適ヲ誤ラサルヲ要

スヘシ此外天下ノ樹林制度ノ均ヲ得ントスル
私有樹林ノ如キモ政府ノ樹林官ニテ其樹林ヲ
支配スル者ヲ試験シ法ヲ立テ制ヲ定メハ宜シ
キヲ得ヘシト當今ノ論說概畧此ノ如シ而メ歐
州各國ノ今日此樹林制度ノ起ル所ヲ察ルニ彼
國ト雖モ往昔未タ工業開ケス今日一日モ缺ク
可カラサル製鐵ヲ以テ材木ヲ用ウルニ勝ルヲ
知ラス方今未開ノ地ノ如ク宮室舟車器具等舉
テ材木ニ賴ラサルナク加ルニ農事牧畜漸ク開
ケ頻リニ山林ヲ開墾シ樹林ノ減縮ニ過ルヲ知

ラス希臘是班牙佛國等ノ一部之カ爲メニ大害
ヲ起スヲ視テ初メテ樹林ノ制度無ンハアル可
カラサルヲ知ルナリ是樹林學ノ起ル所ナリ故
ニ方今歐洲ニ於テ獨逸ノ如ク此學業ノ備ハル
所トイヘモ樹林學ノ規則立テテ一大學科ト就
ルモノハ未タ百年ヲ出ス就中ハルナク氏コッタ
氏バイル氏及ヒフンデスハーゲン氏ノ四大家
出テ此ニ勉勵セル以來天下ノ爲メニ一大勳績
ヲ立テ學術翕然トシテ一新セリ

緒方道平筆記

海國博覽會事務局

東京新橋竹川街續文社刊行

